

第2回 日本の資源 基本問題

- 1 石油や石炭などを(化石)燃料といい、燃やすと地球(温暖化)の原因となる物質を出します。
- 2 石炭の主な用途は火力発電や(鉄鋼)の生産です。
- 3 1973年におこった(中東)戦争の影響で(石油危機)がおこり、石炭が見直されるようになりました。
- 4 石炭は石油と違い今後100年以上とり続けることができる、(輸入先)がかたよらず安定して確保できるという利点があります。
- 5 石油専用の輸送船を(タンカー)といいます。
- 6 地中から掘り出したままの油を(原油)といいます。
- 7 石油は、石油精製工場でガソリン・灯油などの(燃料)油や、化学工業の原料となる(ナフサ)などにわけられます。
- 8 鹿児島県の(喜入)には世界最大級の石油備蓄基地があります。
- 9 日本の石炭の輸入先は、(オーストラリア)・インドネシア・ロシアの順です。
- 10 日本の原油輸入先は、(サウジアラビア)・(アラブ首長国連邦)などの中東諸国が中心です。
- 11 日本の鉄鉱石の輸入先は、(オーストラリア)・ブラジルなどです。
- 12 日本の液化天然ガスの輸入先は、オーストラリア・(インドネシア)・カタールなどです。
- 13 日本のエネルギー供給の割合は、(石油)・(石炭)・天然ガス・水力・その他の順です。
- 14 1960年代に、エネルギーの中心は、石炭から石油にか変わったことを(エネルギー革命)といいます。
- 15 発電のエネルギー源の割合は、(火力)が9割近くをしめています。
- 16 原子力発電は、少ない燃料で長時間発電できます。燃料は(ウラン)です。
- 17 旧ソ連の(チェルノブイリ)原子力発電所の事故以後、原子力発電の安全性についての見直しが強まっています。
- 18 2011年の(東日本大震災)で(福島)県の原子力発電所から大量の放射性物質が放出される深刻な事故がおこりました。
- 19 1963年、日本で初めて原子力発電が行われたのは茨城県の(東海村)です。
- 20 18の事故後(液化天然ガス)が大量に輸入され発電などに利用されています。
- 21 新しいエネルギーは自然現象を使用しているため、くりかえし使えるので(再生可能)エネルギーとよばれます。
- 22 火山国の日本に向いているきれいなエネルギーは、(地熱)発電です。
- 23 出力が1000kW以上の大規模な太陽光発電施設を(メガソーラー)といいます。
- 24 使わなくなったパソコンや携帯電話などから金・銀・レアメタルが取り出せるため「(都市)鉱山」といわれることがあります。
- 25 頁岩という岩石の中に閉じ込められている、石油や天然ガスを取り出したものを(シェール)ガス・オイルといいます。